

# 「ついうっかり」、 なんてことは許されない。

11月9日は、文字通り「119番の日」。この日から一週間、全国各地で秋の火災予防運動が行われます。火災予防運動は、日本だけではなくアメリカでも盛んですが、そのきっかけとなったのは、1871年(明治4年)のシカゴ大火です。大統領は自ら「不注意こそが失火の最大原因である」と声明を発表し、その後は毎年10月8日を中心に、火災予防週間が設けられるようになりました。日本においては、昭和2年3月7日の北丹後地震(マグニチュード7.5、死者2,925人、全壊家屋2,165戸、全焼家屋3,711戸)により、防火思想の普及が重要な問題であると認識されるようになりました。その3年後の同日、日本消防協会が府県の消防協会と共催で第一回防火運動を近畿地方で実施。その後、日本全国にこの運動が広がり、昭和24年から火災予防運動が春と秋の年2回に行われるようになりました。今から66年前の関東大震災も、焼失家屋約44万7千戸、死者・行方不明者約14万3千人という、地震と火災による未曾有の災害。そんな災害から学ぶことがあるとすれば、それは「絶対に忘れてはならない教訓にする」ということ。地震が起きた時には、まず火を消す。万が一、火災が発生した時には、隣近所や自主防災組織の協力を求め、初期消火に努める。そして忘れてならないのが、119番への通報。あわてずに、すみやかに、正確に通報しましょう。

# 備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。  
 そなえる…用意する、そろえる、用心する  
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。  
 そなえ…したく、用意、警戒、防御  
 備品。設備。備蓄。備員。備考。備忘。  
 そなわる…準備ができる、身に付く  
 ●●●ソナエ アレバ ウレイナン!!



1989	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
11	・	・	・	1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	・	・

■毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

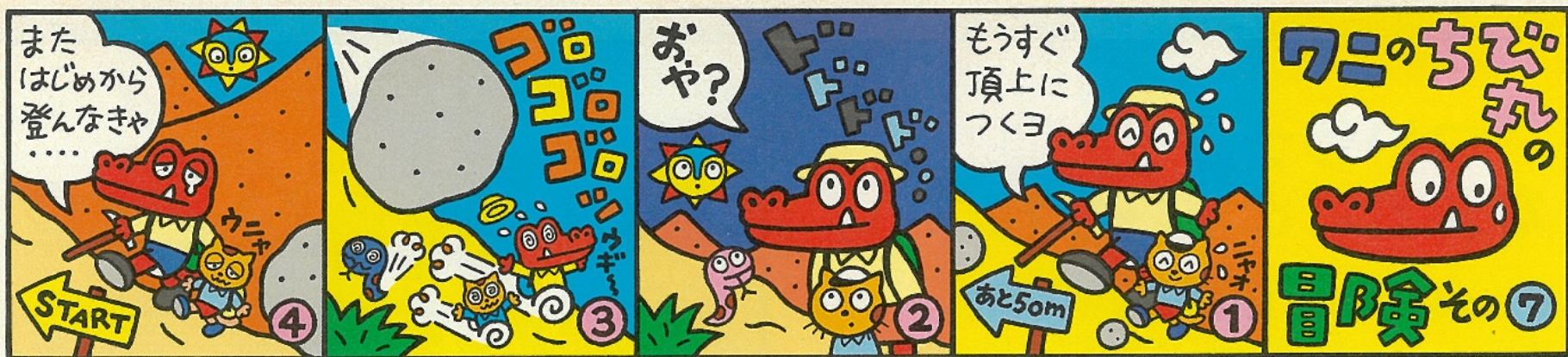


かわさき NO  
 防災広報紙

1989年(平成元年)10月31日発行  
 発行所 川崎市  
 編集所 土木局防災対策室  
 〒210川崎市川崎区宮本町1番地  
 TEL. (044) 200-2111内線2841

# 63

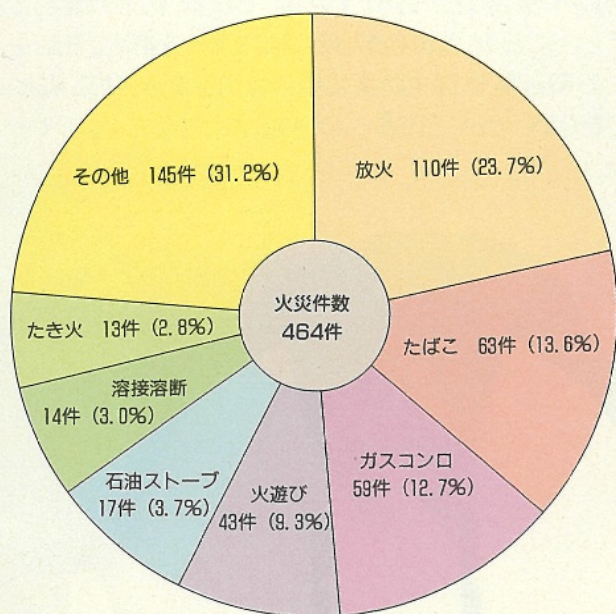




# お料理の最中は、電話や来客よりも、

小さな不注意が、大きな災いを招きます。

昭和63年中の火災原因のうち、「放火(疑いを含む)」が110件でトップ。次いで2位「たばこ」63件、3位「ガスコンロ」59件の順となっています。



この59件のうち、実に47件が天ぷらなど揚げものをしていて、この電話、来客の対応などによる放置が原因となっています。必ずいったん火を消してからガスコンロを離れるとともに、コンロの上やまわりに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

家のまわりにも燃えやすいものを置かないようにし、寝る前の火の元の点検を心がけましょう。



# 火の始末が最優先!

消火マスターであなただも名消防士になれる!?



10秒で消火できればキミも「優秀消防士」

地震発生するとき、一番恐ろしいのが火災です。みなさんのご家庭では消火に対する備えは万全でしょうか。「消火器を備えたり、浴槽やバケツに水をいれておく」ことが大切ですが、せっかく消火器を備えていても使い方を知らなかったら何にもなりません。

いざという時、確実にすばやく消火できるようにするには日頃からの訓練が大切です。

南部防災センターでは、「消火マスター」という模擬消火訓練装置を設置してありますので、あなたも一度体験してみませんか。また、本物の揺れをハダで感じていただける「地震体験装置」もありますので、是非一度、ご見学されてはいかがでしょうか。

お問い合わせ  
 南部防災センター  
 (川崎区小田7-3-1)  
 電話 3555-2175

アポイドとは、英語のAVOID(避ける、よける)に由来しており、自然災害から市民の皆さんの生命と財産を守るために、自然災害が過去にどんな所で発生したか、また、どんな所に起きやすいかを皆さんに知っていただき、安全対策を立てていただくために神奈川県が作成したもので、次のような内容が表示されています。

- 過去の被害区域  
洪水・浸水区域、がけ崩れ発生箇所など
- 法指定危険区域  
急傾斜地崩壊危険区域、宅地造成工事規制区域など
- 土砂災害予想危険箇所  
斜面崩壊など
- 地震の被害想定区域  
地盤の液状化など

※表示されている場所以外にも、自然災害を受けやすい土地もあり、また、大雨・台風・地震などの誘因の強弱によって危険の程度は異なりますので、この点を十分理解していただき、アポイドマップを活用してください。

アポイドマップは、土木局防災対策室、各区役所などで閲覧できます。

詳しいお問い合わせは防災対策室(電話2000-2794)まで。

## 自主防災組織等リーダー研修会が始まります。

大地震などが発生すると電話が通じなかったり、道路が使えなかったりして救援活動が思うようになりません。そんなとき頼りになるのが町会や自治会など地域ごとに結成された自主防災組織です。

本市では、自主防災組織の結成促進と自主防災活動の活性化を図るため、10月から各区の区役所等で、防災映画の上映と防災対策全般にわたる講演を中心に「自主防災組織等リーダー研修会」を開催しますので、ぜひご参加くださるようお願いいたします。

去る9月22日、防災に関する知識と理解を深める目的で、高津区老連主催の防災研修会が高津区役所で開催されました。

映画「地震の知識と対策」の上映、防災対策室主幹による「災害時の安全管理・対応、リーダーとしての行動・指示など」を内容とした講演のあと、活発な質疑応答が行われました。

防災対策室では、自主防災組織の活動を進めるために映画「ビデオ証言―被害者たちの声」を作成し、全町内会・自治会に配布する予定で準備を進めています。また、各種防災映画などの貸出もしていますので、町内会や自治会の会合などの際にぜひご利用ください。

お問い合わせ  
 防災対策室(電話2000-2795)又は区役所総務課へ

## 6 こちらお天気情報室

「夜霧も今夜もありがとう」「夜霧のしのび逢い」など「霧」という言葉は、美しいひびきをもっていて、歌謡曲や映画のタイトルにもよく使われており、俳句の季語では秋になっています。

霧は、地表面付近にできた雲で、水蒸気を含む空気が冷えたり、空気中の水蒸気が多くなりすぎたりするとできますが、似たような言葉に「もや」があります。気象学では、両者をはっきりと区別する基準が設けられており、簡単にいえば、両者とも、肉眼では見えないようなごく細かな水滴が空气中にたまって視界を妨げる現象で、濃いものが「霧」、薄いものが「もや」です。もう少し詳しくいえば、1km未満のものが見分けられなくなる状態が「霧」、1km以上10km未満のものが見分けられなくなる状態を「もや」と呼んでいます。気象してみると、濃霧の発生は、船の事故をたびたび起こしたり、とてもやっかいなものでもあるのです。